平成27年度第2回消費生活eモニターアンケート調査

「かながわの暮らしむきについて」

目　　次

第1章　調査の概要　・・・P2

1　調査目的

2　調査対象

3　調査方法

4　調査期間

5　回答者の属性

第2章　調査結果　・・・P3

第1章　調査の概要

1　調査目的

県民の暮らしの実態と家計や物価についての意識を把握し、今後の県の消費者行政の参考とするため、「かながわ暮らしむきについて」アンケート調査を実施しました。なお、この調査は昭和58年度から毎年実施しています。

2　調査方法

ホームページ上でのアンケート調査
前半・後半に分け、片方のみ回答した場合も、有効回答として集計しています。

3　調査期間

平成27年11月9日(月)から11月19日(木)まで

4　調査対象

消費生活eモニター　559名　前半回答者：285名　後半回答者：274名

5　回答者の属性

前半	性別	男性　101名		女性　184名
	年齢	18～29歳	16名(男性：　3名	女性：13名)
		30歳代	52名(男性：　6名	女性：46名)
		40歳代	80名(男性：21名	女性：59名)
		50歳代	54名(男性：22名	女性：32名)
		60歳代	56名(男性：27名	女性：29名)
		70歳以上	27名(男性：22名	女性：　5名)
後半	性別	男性　95名		女性　179名
	年齢	18～29歳	16名(男性：　3名	女性：13名)
		30歳代	51名(男性：　6名	女性：45名)
		40歳代	77名(男性：20名	女性：57名)
		50歳代	51名(男性：21名	女性：30名)
		60歳代	54名(男性：24名	女性：30名)
		70歳以上	25名(男性：21名	女性：　4名)

第2章　調査結果

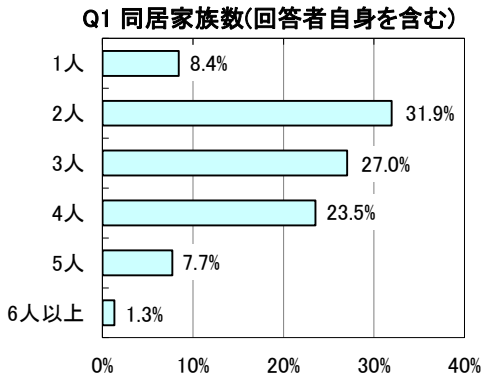
・複数回答のある設問では、比率の合計が100を超える場合があります。
・無回答がある場合、比率の合計が100に満たない場合があります。

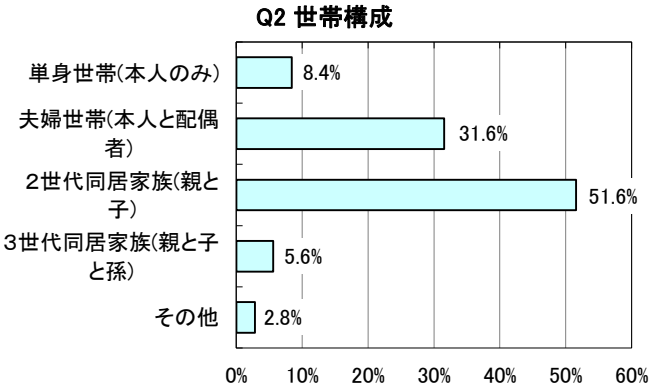
＜アンケート前半＞:回答者285名

1. 回答者の属性

Q1 同居家族　及び　Q2 世帯構成

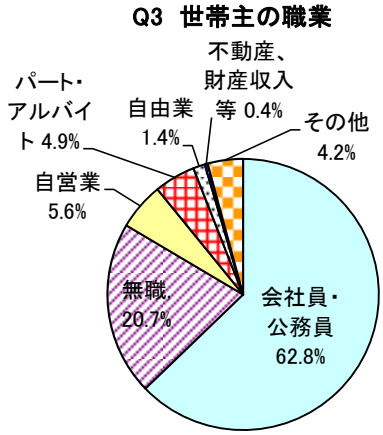
回答者自身を含む同居家族数は、「2人」が最も多く、「3人」「4人」と続きました。
また、世帯構成は、「2世代同居家族」が最も多く、「夫婦世帯」「単身世帯」と続きました。





Q3 世帯主の職業

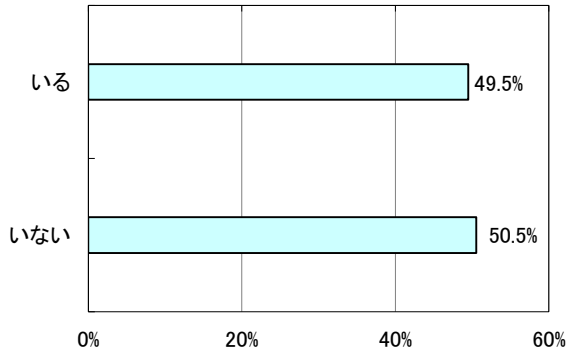
世帯主の職業は、「会社員・公務員」が最も多く、「無職」「自営業」「パート・アルバイト」と続いています。



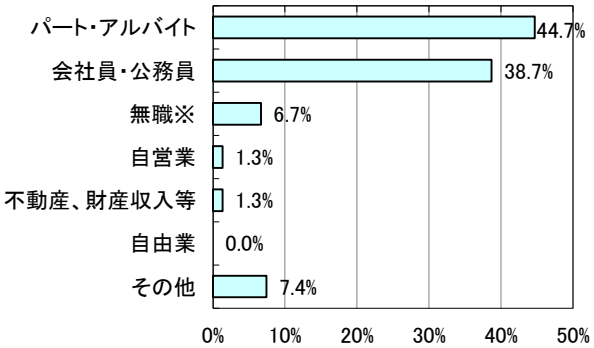
Q4 世帯主以外の就業者の有無　及び　Q5 その職業

世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯はほぼ半数で、その人の職業は、「パート・アルバイト」が最も多く、次いで「会社員・公務員」となっています。

Q4　世帯主以外に収入を得ている人の有無



Q5　世帯主以外に収入を得ている人の職業（複数回答、総数141名）

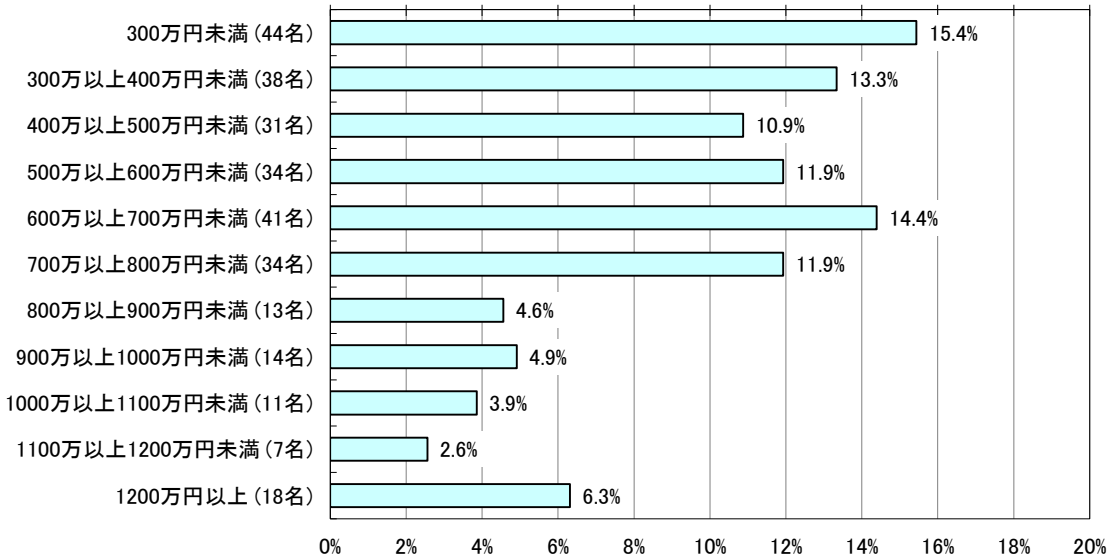


※「無職」では「年金収入」というコメントが多く挙げられました。

Q6 家庭の年収

家庭の年収は、「300万未満」が15.4%で最も多く、次いで「600万以上700万未満」が14.4%、「300万以上400万未満」が13.3%となりました。

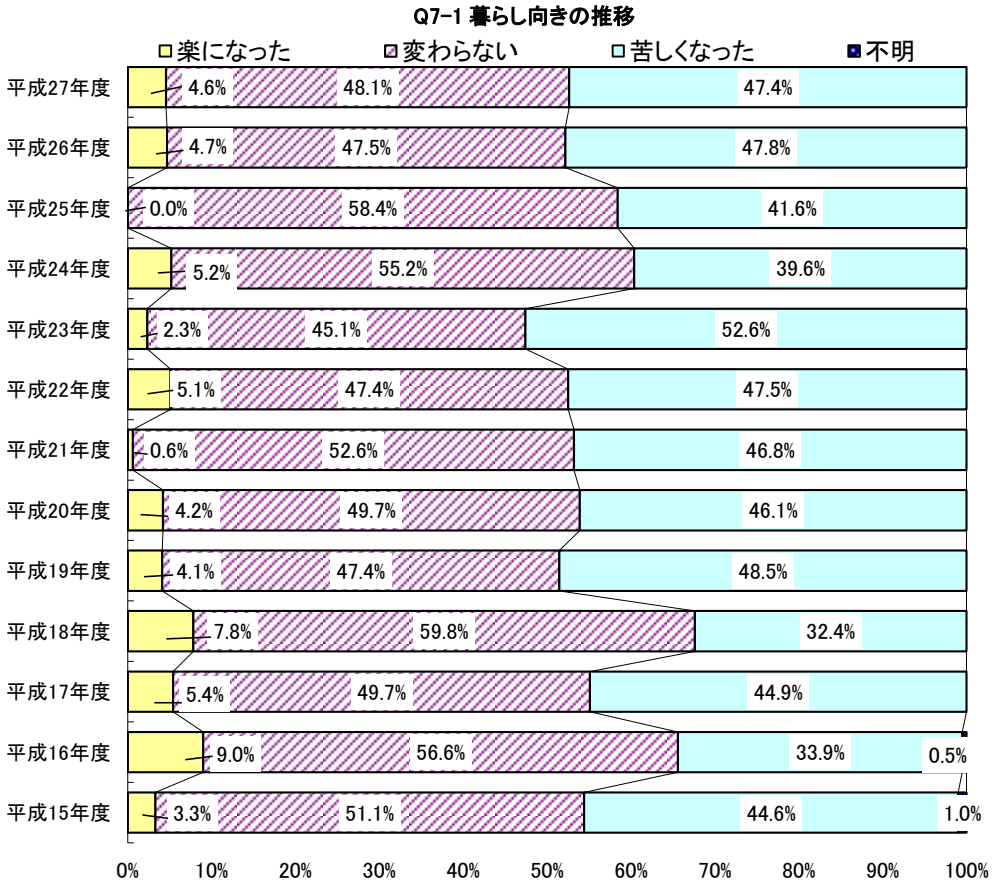
Q6 家庭の年収



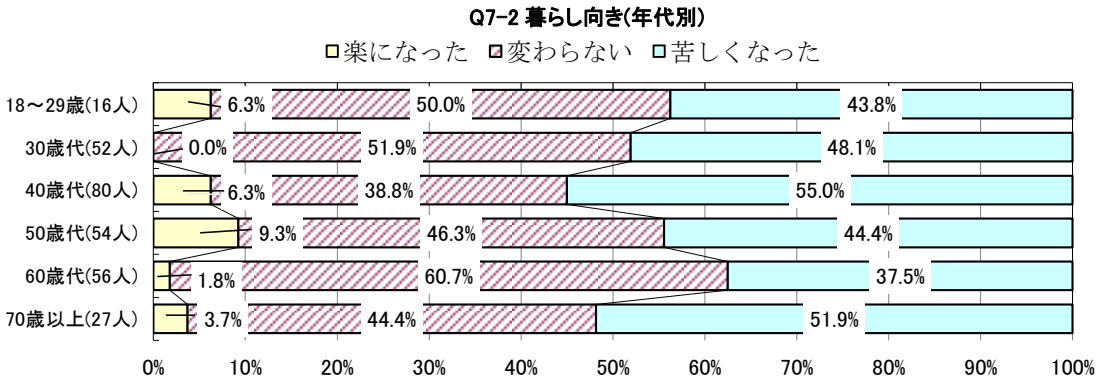
2. 暮らしむきと生活意識

Q7 暮らしむきの意識

昨年の同時期と比べてご家族の暮らしむきがどうなったかについては、「苦しくなった」と「変わらない」がほぼ同数で、平成26年度と同様の傾向になりました。

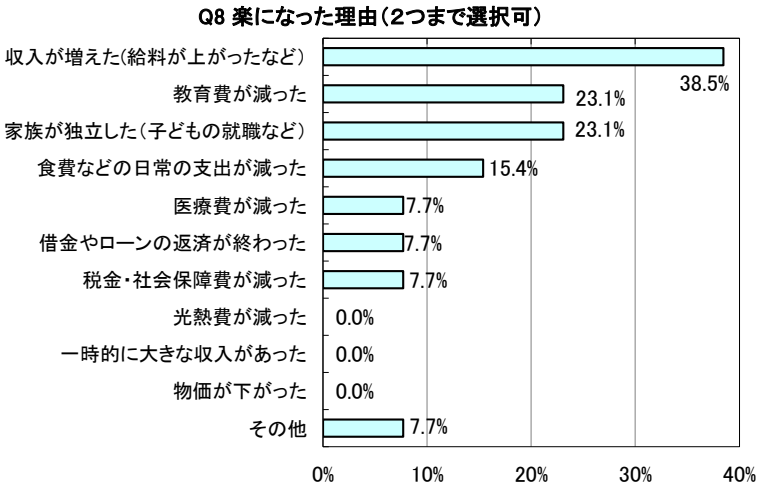


年代別に見ると、40歳代と70歳以上で「苦しくなった」が5割を超えました。



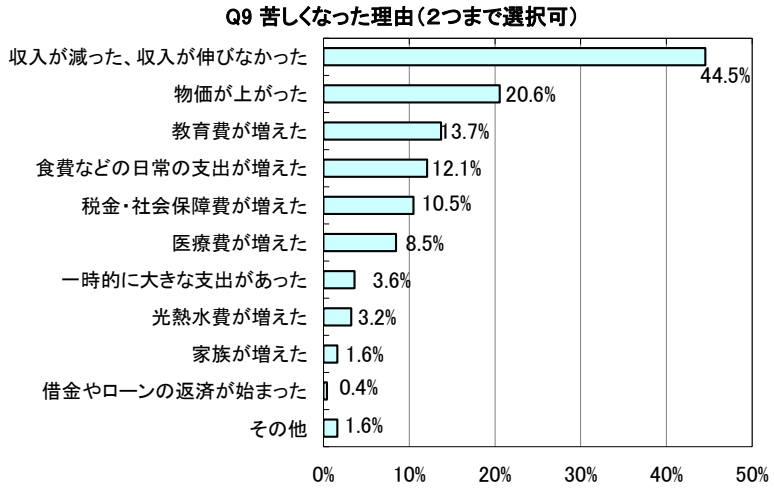
Q8 楽になった主な理由

Q7で「楽になった」と回答した13名に理由をたずねたところ、「収入が増えた（給料が上がったなど）」「教育費が減った」「家族が独立した（子どもの就職など）」と続きました。



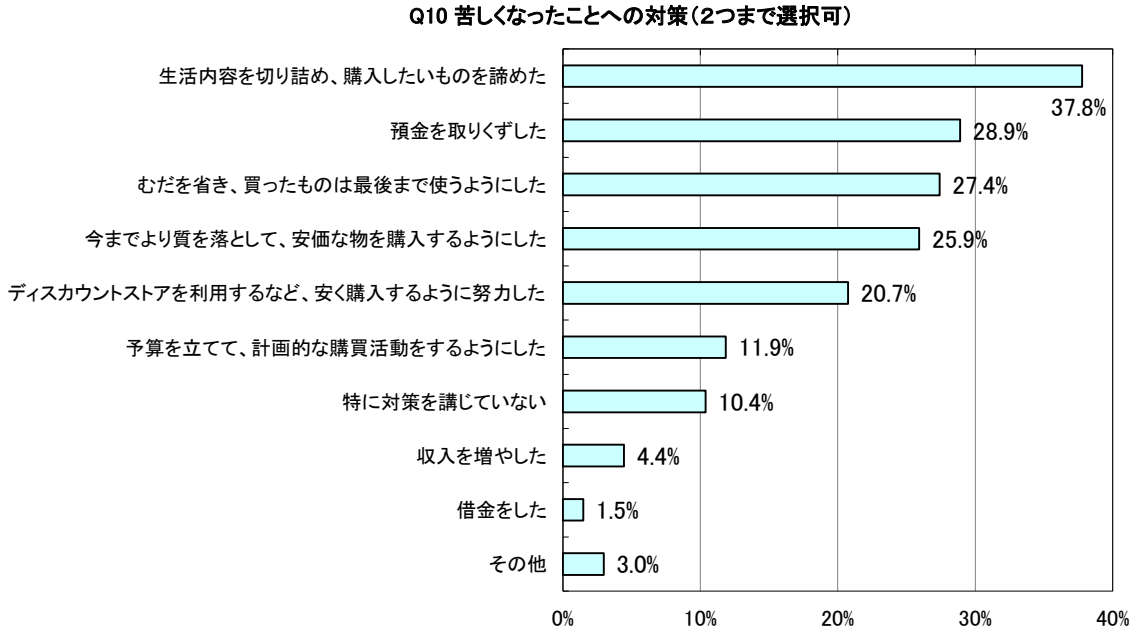
Q9 苦しくなった主な理由

Q7で「苦しくなった」と回答した135名に理由をたずねたところ、「収入が減った、伸びなかった」が最も多く、「物価が上がった」「教育費が増えた」と続きました。



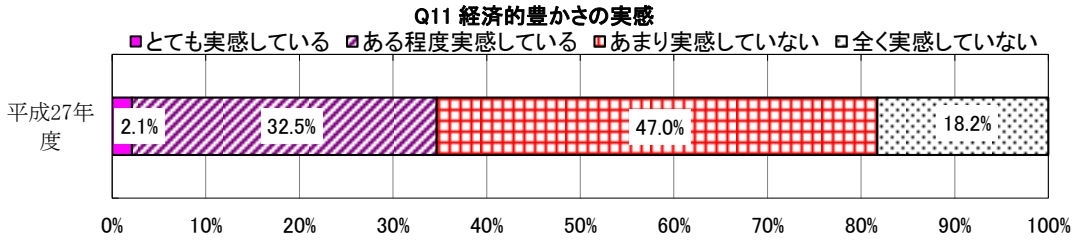
Q10 苦しくなったことへの対策

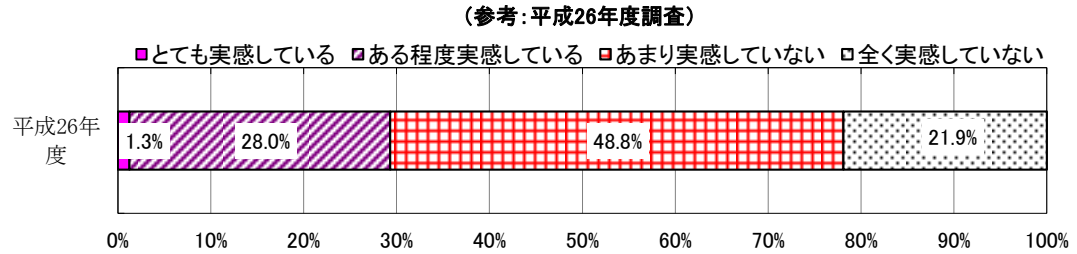
Q7で「苦しくなった」と回答した135名に、講じた対策をたずねたところ、「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」が最も多く、「預金を取りくずした」「むだを省き、買ったものは最後まで使うようにした」「今までより質を落として、安価な物を購入するようにした」と続きました。



Q11 経済的豊かさの実感

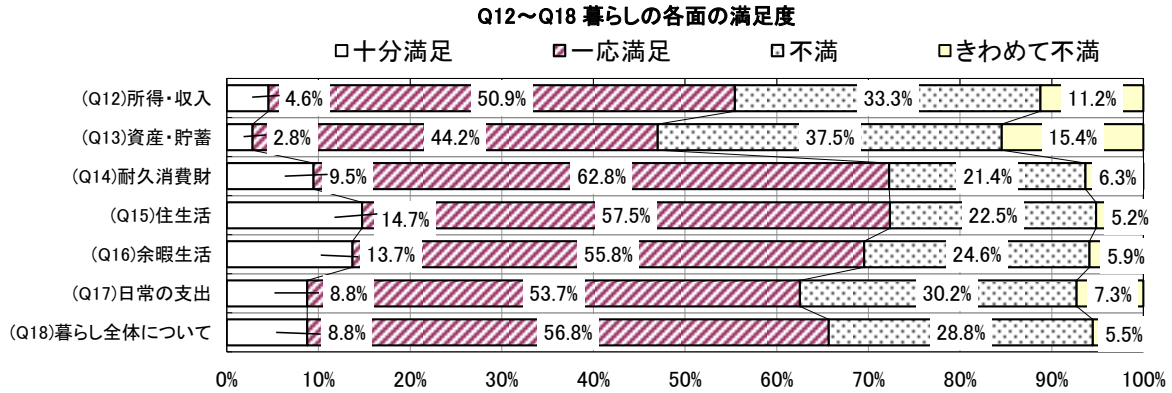
日々の生活で経済的な豊かさを実感しているかたずねたところ、「とても実感している」と「ある程度実感している」の合計が34.6%で、平成26年度の29.3%と比較すると、経済的豊かさを実感している方の割合が増加しています。





Q12～Q18 暮らしの各面の満足度

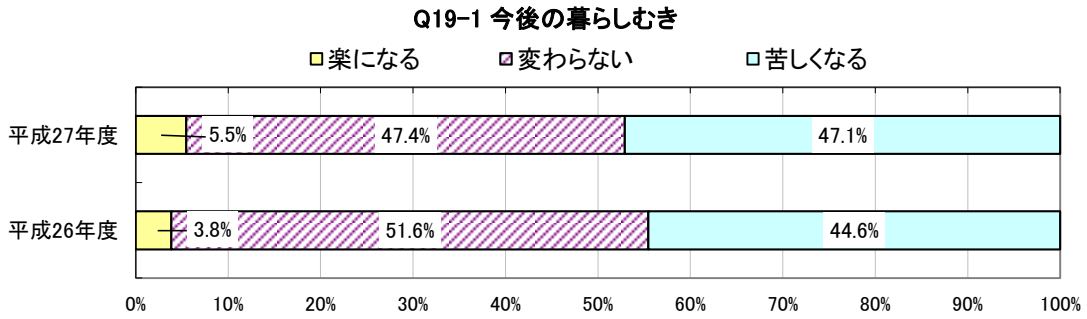
暮らしの様々な面での満足度をたずねたところ、「資産・貯蓄」の面で、「きわめて不満」と「不満」の合計が5割を超えました。それ以外の項目では「十分満足」と「一応満足」の合計が全て5割を超えており、「暮らし全体について」の満足度は、「十分満足」と「一応満足」の合計が6割を超えています。



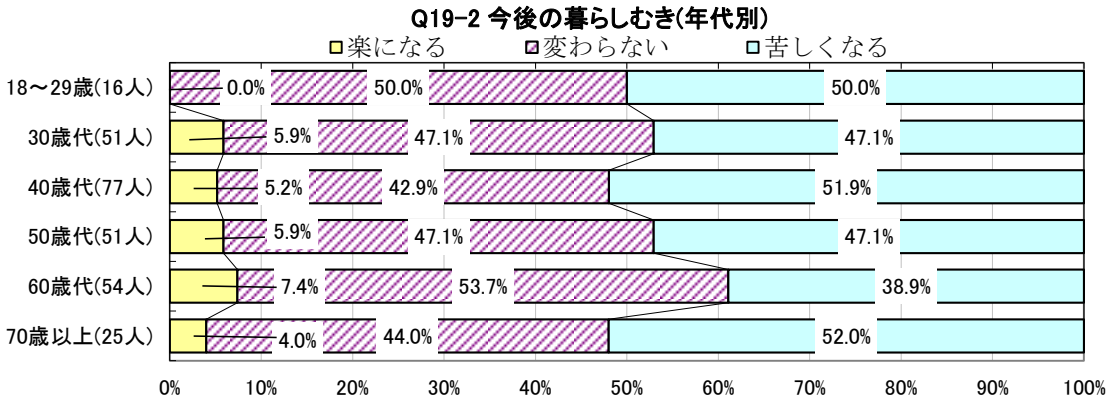
＜アンケート後半＞:回答者274名

Q19 今後の暮らしむき

今後の暮らしむきの見通しについては、平成26年度と比較すると、「変わらない」が若干減少し、「楽になる」「苦しくなる」がともに若干増えました。



年代別に見ると、40歳代および70歳以上の年代で、「苦しくなる」の割合が5割を超えました。



Q20～Q22 「Q19」の回答理由

Q19での回答理由をそれぞれたずねたところ、以下のとおりでした。(自由記入、要約・抜粋)
「苦しくなる」理由として、「教育費が増えるため」「物価が上がるため」が多く挙げられました。

＜回答＝楽になる＞ 5.5%

＊ 仕事を始めたため
＊ 年金を受給できるようになるため
＊ 教育費が減るため

＜回答＝変わらない＞ 47.4%

＊ 収入・支出に変化がないため
＊ 家族構成に変化がないため
＊ 生活スタイルに変化がないため

＜回答＝苦しくなる＞ 47.1%

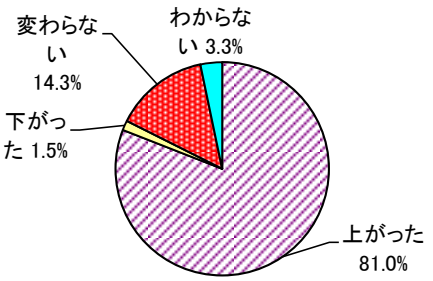
＊ 教育費が増えるため
＊ 物価が上がるため
＊ 医療費が増えるため
＊ 子どもが生まれるため
＊ 収入が減るため

Q23 物価の上昇感・下落感

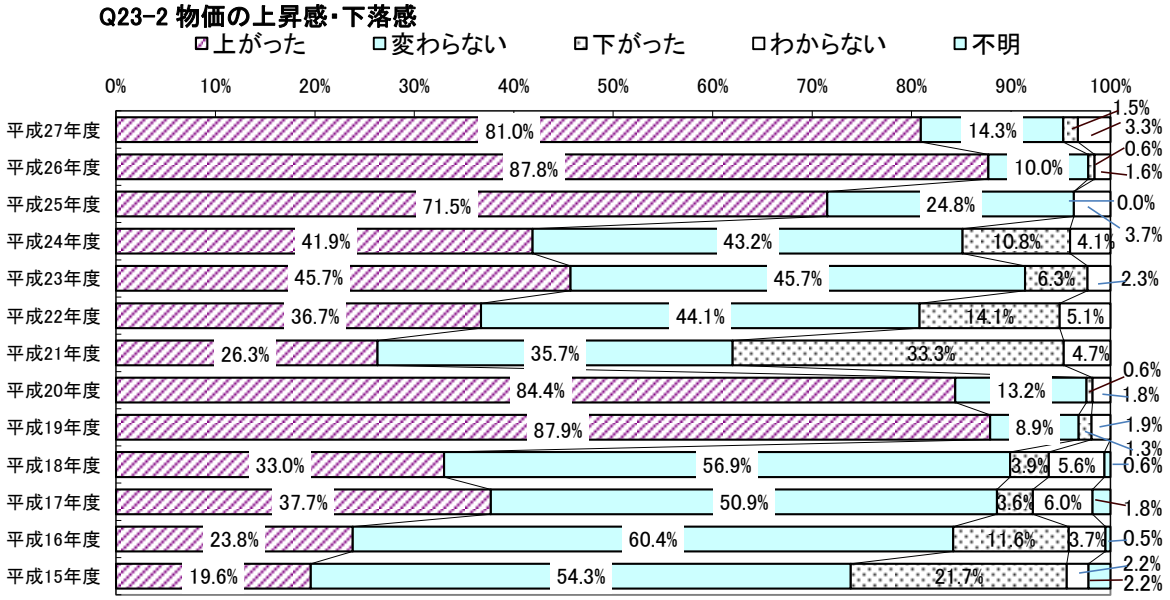
この1年間の物価についてどのように感じているかについて、「上がった」が8割を超え、多くの方が物価の上昇を感じていました。

平成26年度と比較すると「上がった」は減少しているものの、２年連続で8割を超える高い水準となっています。
物価の上昇については、Q38の自由意見で意見が寄せられましたので、そちらもご覧ください。

Q23-1 物価の上昇感・下落感



Q23-2 物価の上昇感・下落感

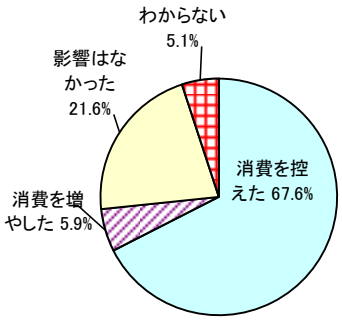


（参考）平成26年4月から消費税5%から8%に引上げ

Q24 物価上昇の影響

Q23で「上がった」と回答した222名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、7割弱が「消費を控えた」と回答しました。

Q24 物価上昇による消費傾向

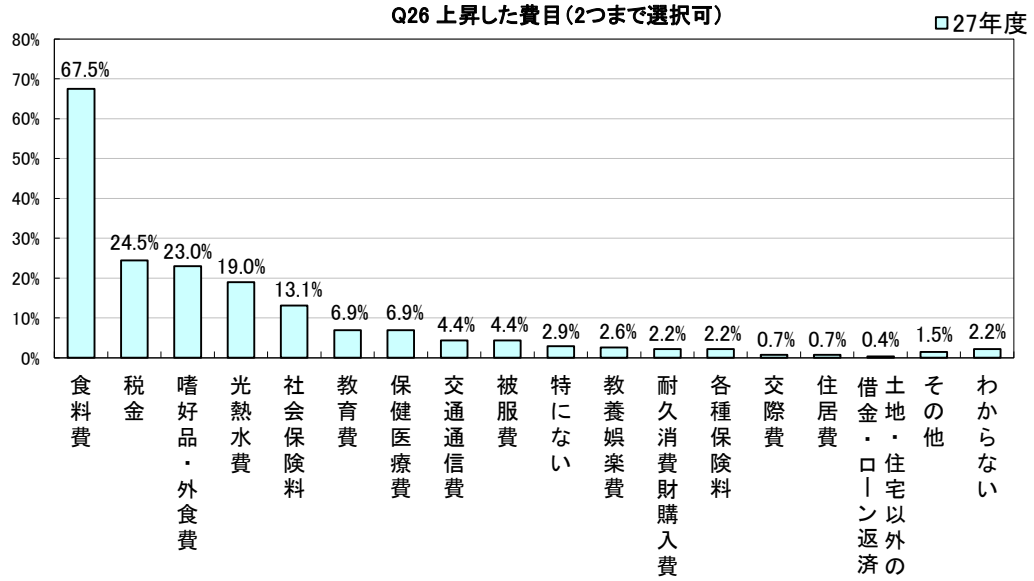


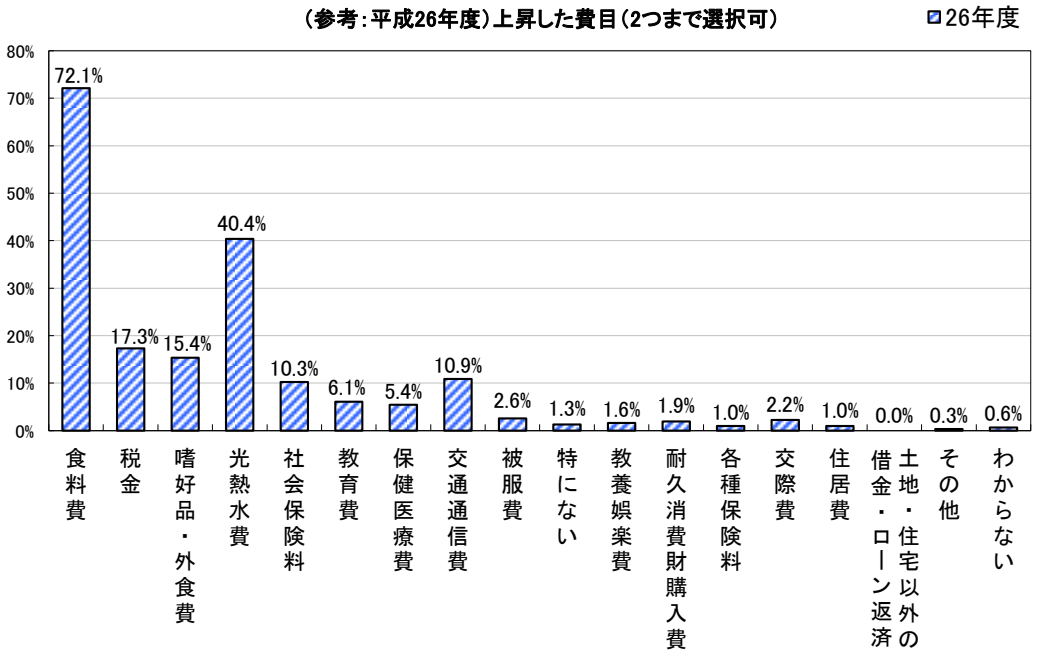
Q25 物価下落の影響

Q23で「下がった」と回答した方は4名で、家庭の消費傾向をたずねたところ、3名が「消費を控えた」、１名が「消費を増やした」と回答しました。

Q26 上昇した費目

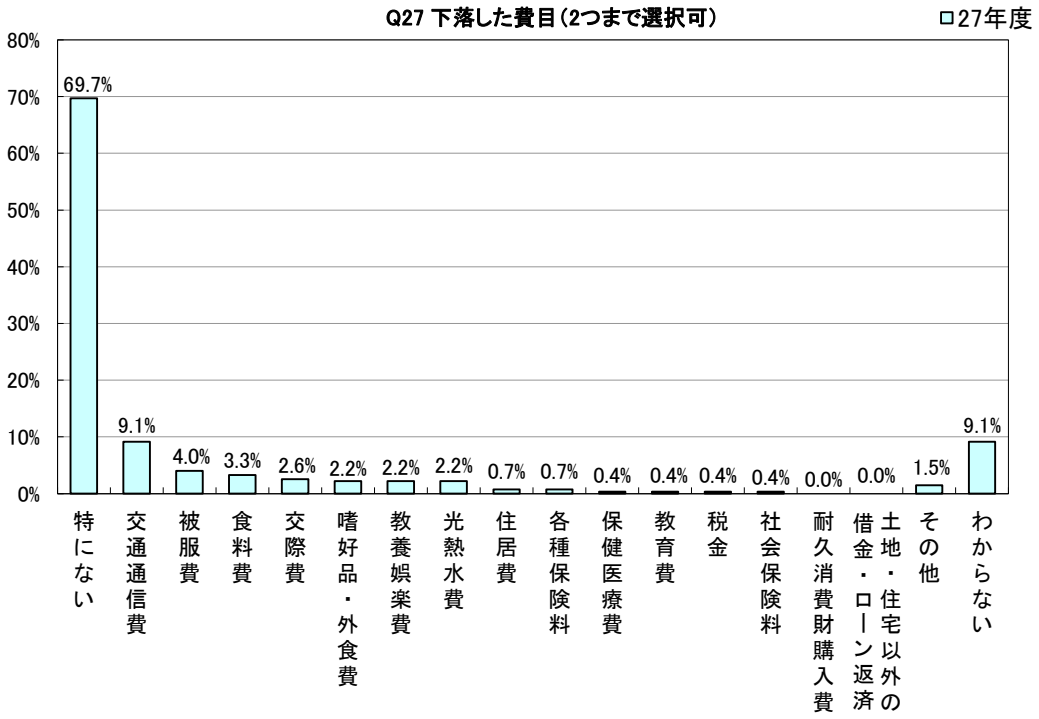
この1年間の物価について、どの費目で特に上がったと思うか、たずねたところ、「食料費」が6割を超え、26年度に続き、最も多くなりました。以下「税金」「嗜好品・外食費」「光熱水費」と続いています。なお、「光熱水費」については、26年度の2分の1以下となっています。

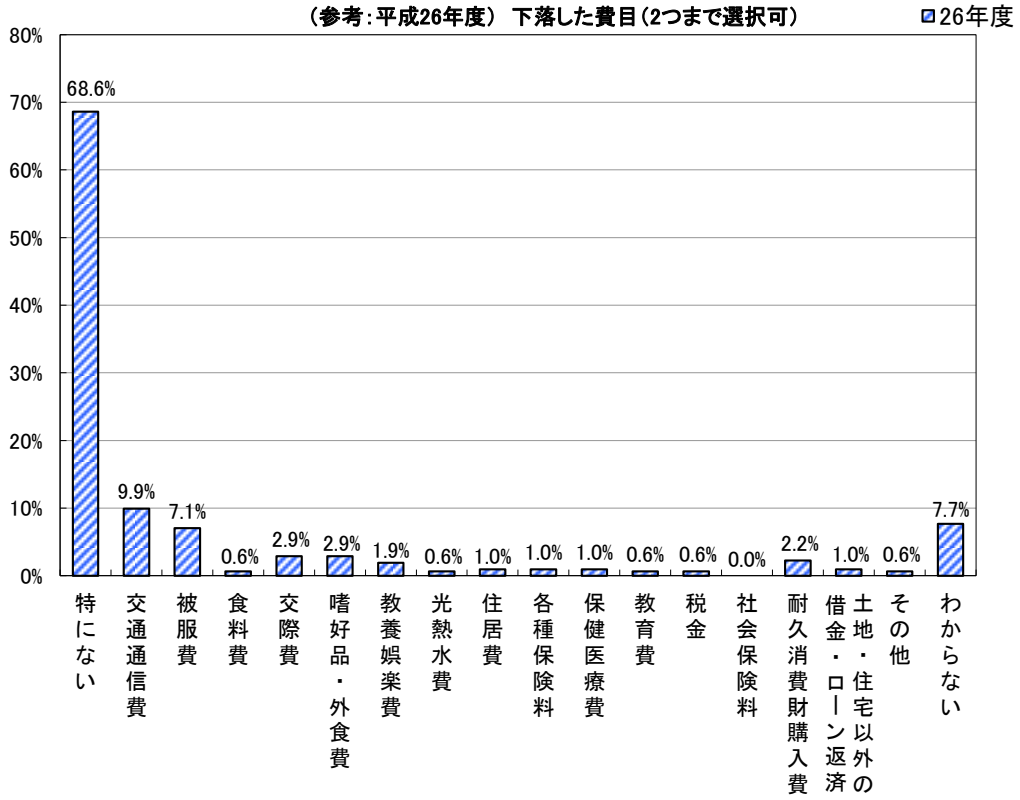




Q27 下落した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に下がったと思うかについては、「特にない」が7割弱で、その他の費目は全て1割以下でした。

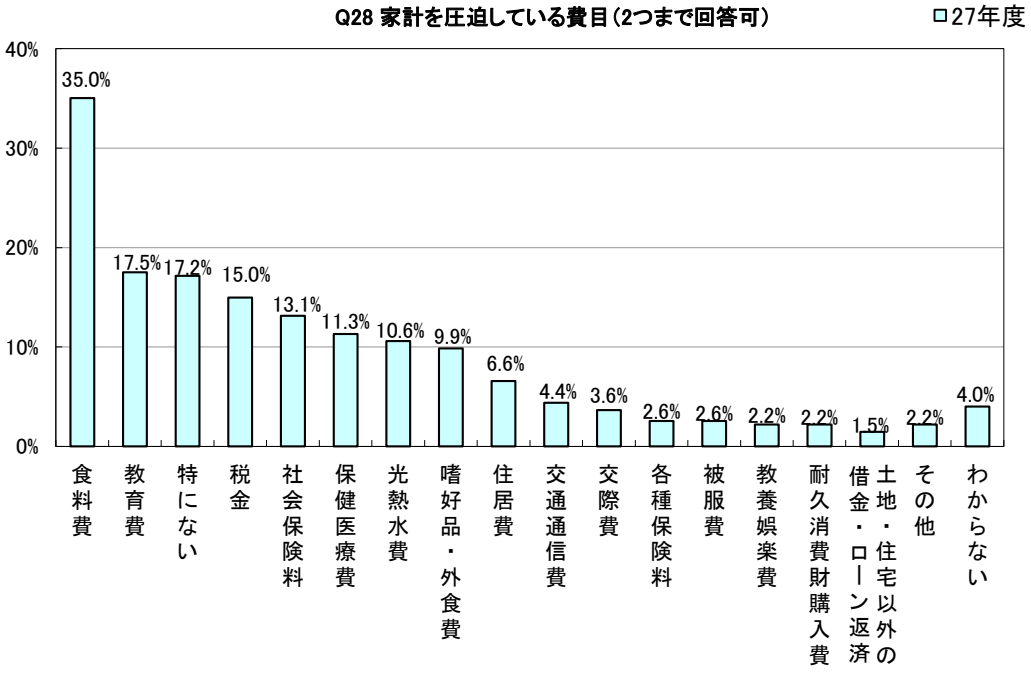


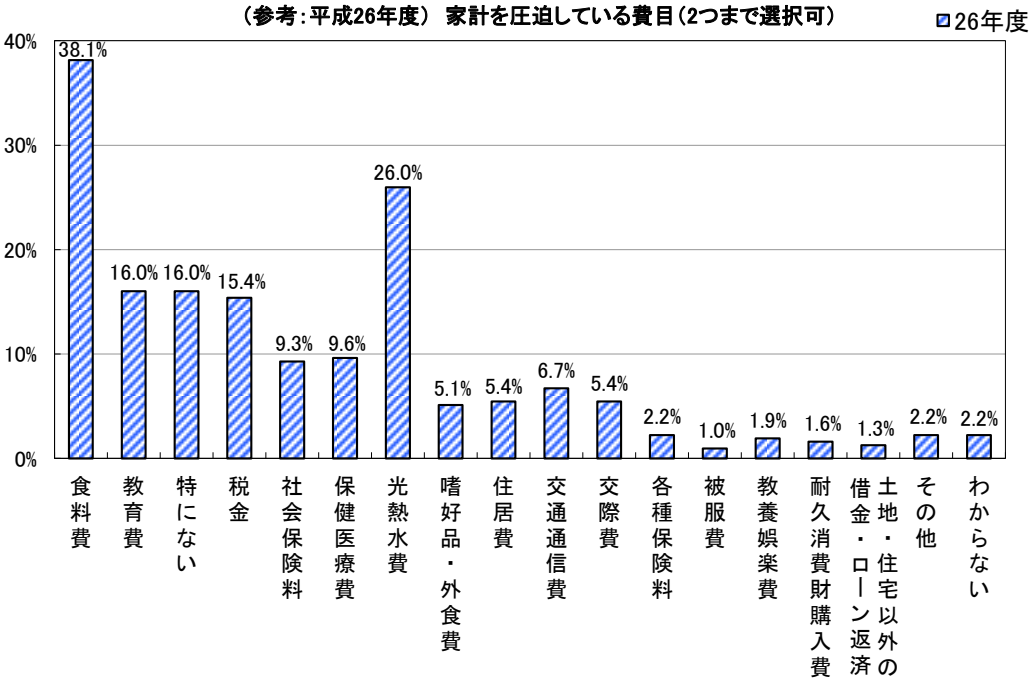


Q28 家計を圧迫している費目

支出面で、特に増えて家計を圧迫している費目については、「食料費」が3割を超え、最も多く、以下「教育費」「特にない」「税金」と続きました。

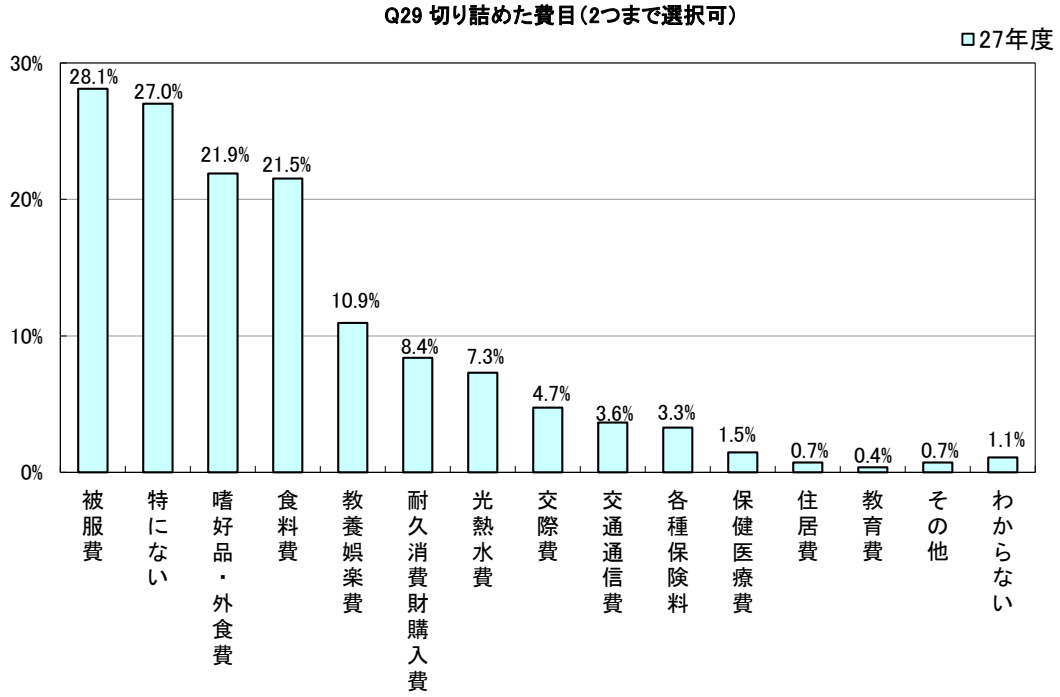
平成26年度と比較すると、「社会保険料」「嗜好品・外食費」の増加及び「光熱水費」の減少が目立ちます。

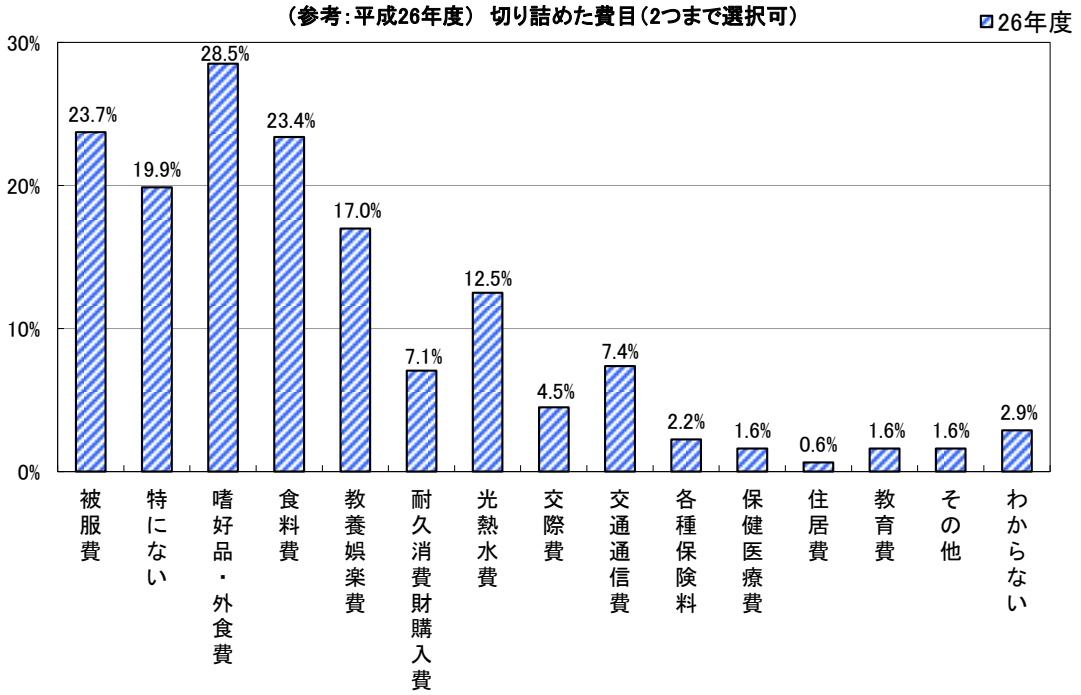




Q29 切り詰めた費目

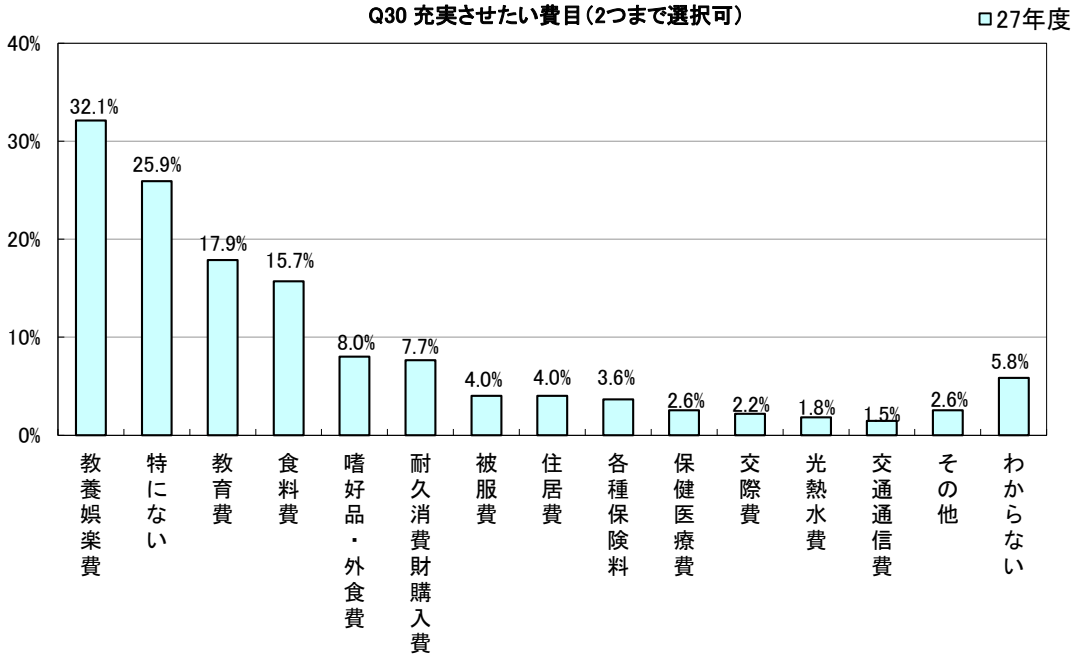
支出面で、特に家計で切り詰めた費目については、「被服費」「特にない」「嗜好品・外食費」と続いています。

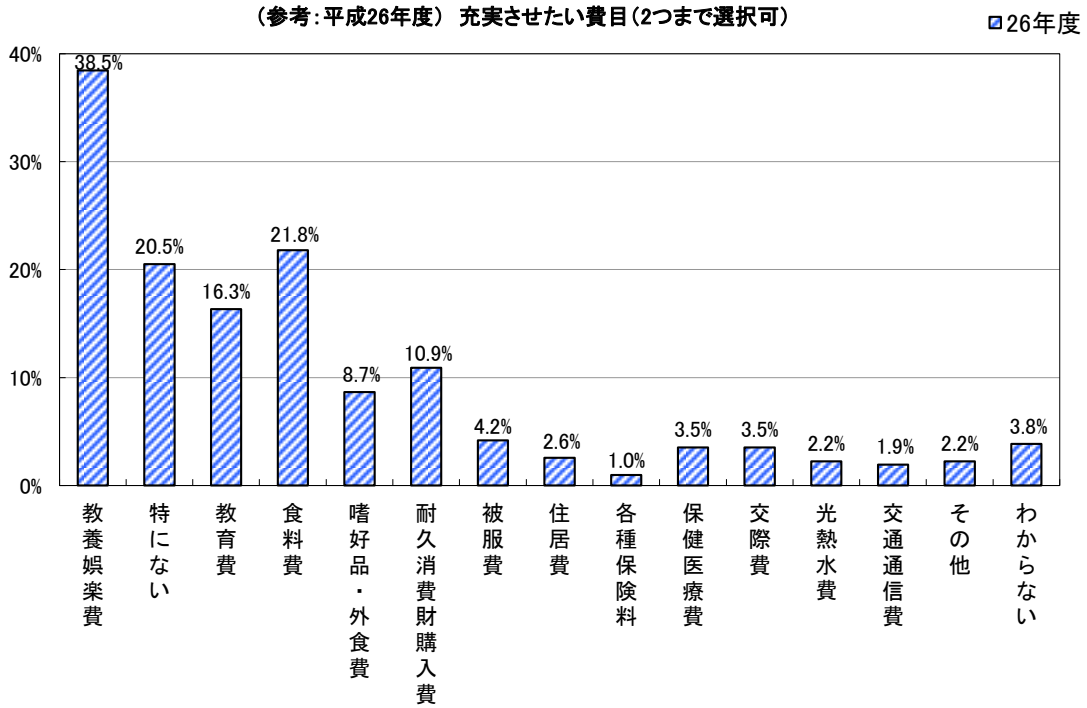




Q30 充実させたい費目

今後、支出面で充実していきたいと思う費目については、「教養娯楽費」が3割を超え、最も多く、以下「特にない」「教育費」「食料費」と続いています。





Q31 充実させたい費目に関する考え（自由記入）

Q30で充実させたいと回答した費目についての考えを聞いたところ、主なものは以下のとおりでした。（自由記入、抜粋・要約）

教養娯楽費　32.1%

＊ 海外を含む旅行に行きたい
＊ 書籍にお金をかけたい
＊ 趣味や学びを充実させたい
＊ 人生の質を豊かにしたい

教育費　17.9%

＊ 子どもを希望の学校に行かせたい
＊ 子どもに習い事をさせたい
＊ 子どもが成長できるものにはお金をかけたい

食料費　15.7%

＊ 国産の食材を購入したい
＊ 身体に良いものを購入したい
＊ 安全なものを購入したい

嗜好品・外食費　8.0%

＊ 外食を増やしたい
＊ 安くて質の良いお得感がある商品を選びたい

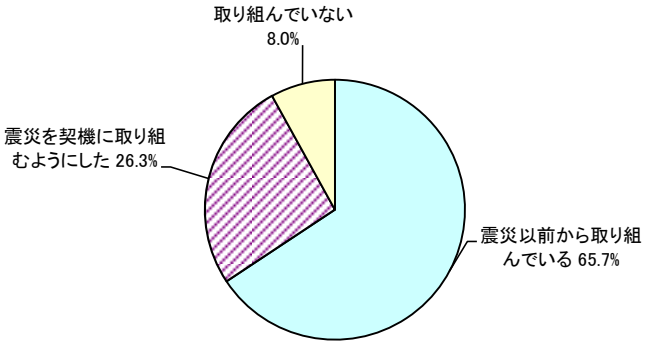
耐久消費財購入費　7.7%

＊ 自動車を買い替えたい
＊ 冷蔵庫を買い替えたい

Q32 節電に取り組んでいるか

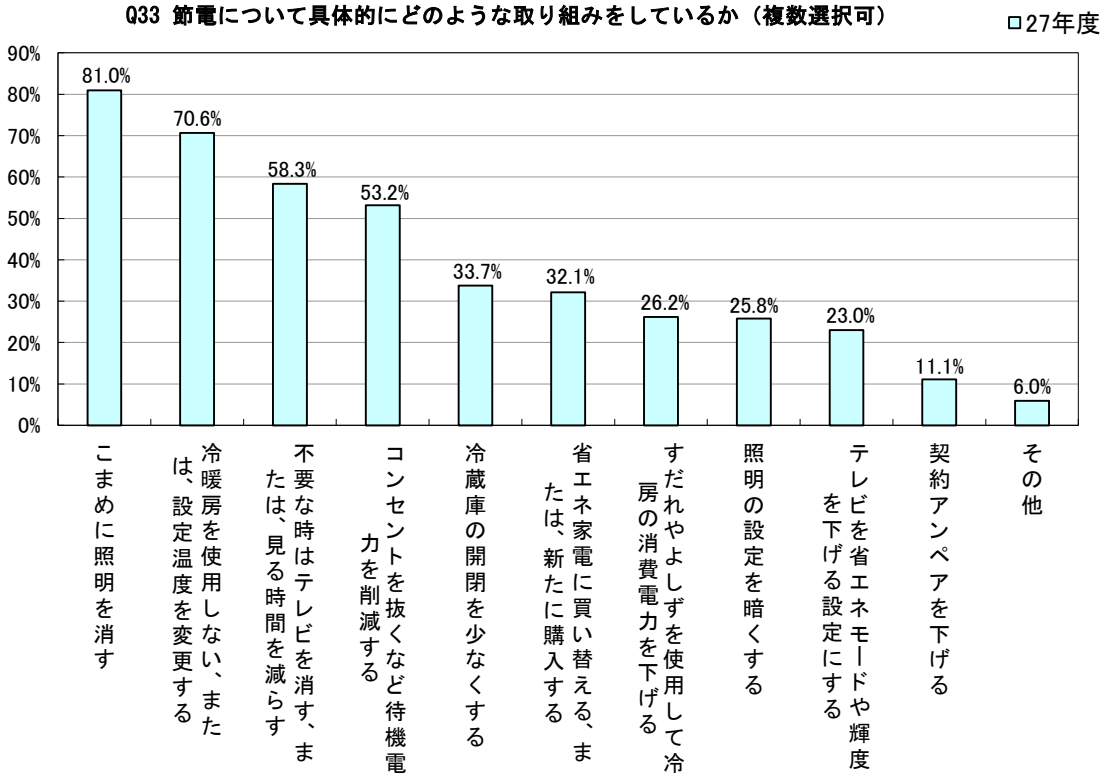
節電に取り組んでいるか、たずねたところ、「震災以前から取り組んでいる」が6割以上で最も多く、次いで「震災を契機に取り組むようにした」が2割以上でした。これらを合わせると9割以上を占め、ほとんどの人が節電に取り組んでいることが示されました。

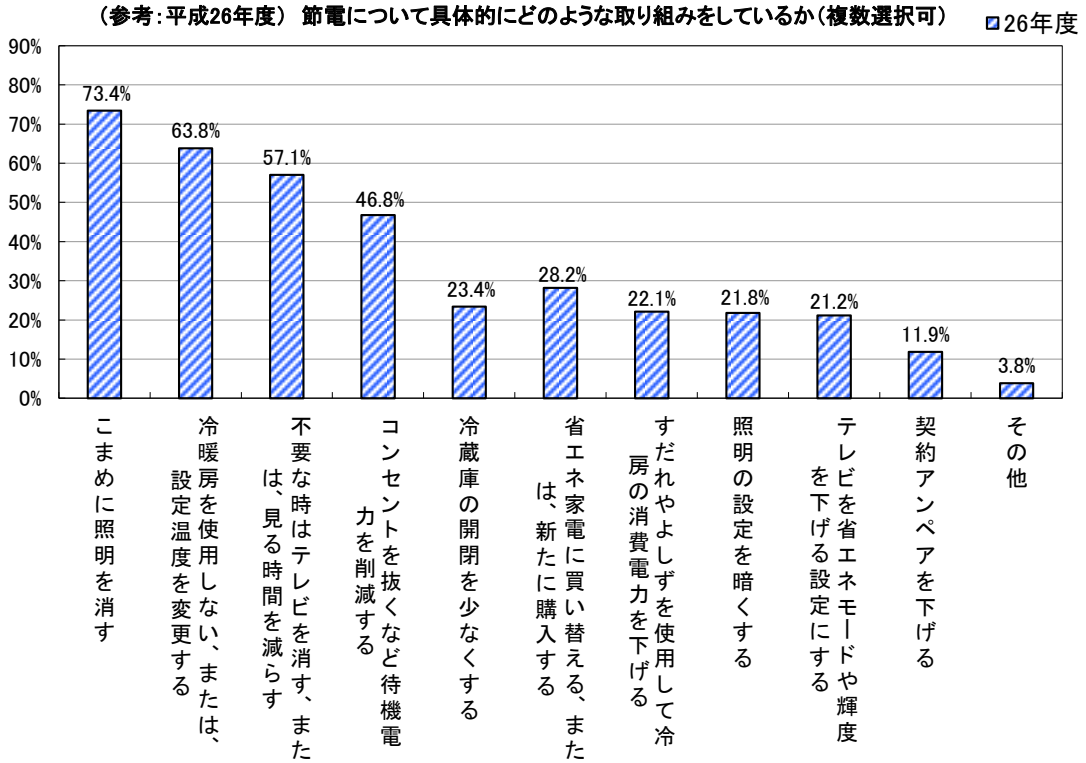
Q32 節電に取り組んでいるか



Q33 節電について具体的にどのような取り組みをしているか

Q32で節電に取り組んでいる・取り組むようにしたと回答した252名に具体的な取組みについてたずねたところ、「こまめに照明を消す」が8割を超え、最も多い回答でした。以下、「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」「コンセントを抜くなど待機電力を削減する」と続き、身の周りで手軽に出来ることから取り組んでいる様子がうかがえました。

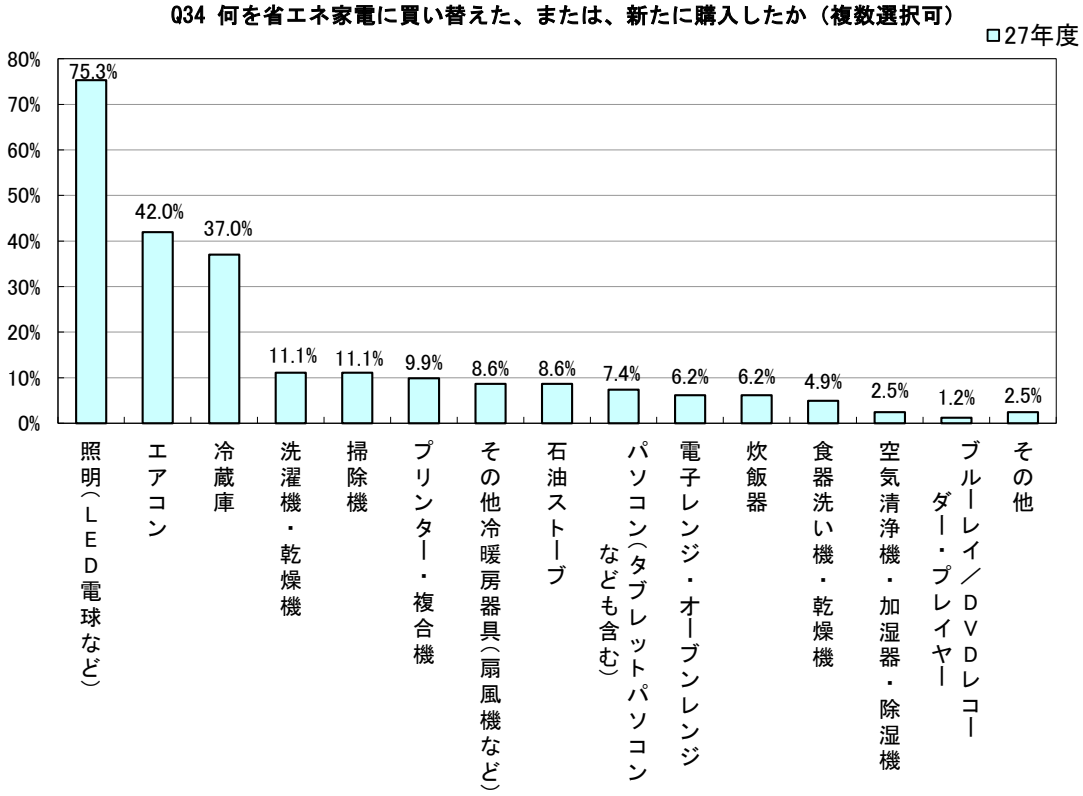




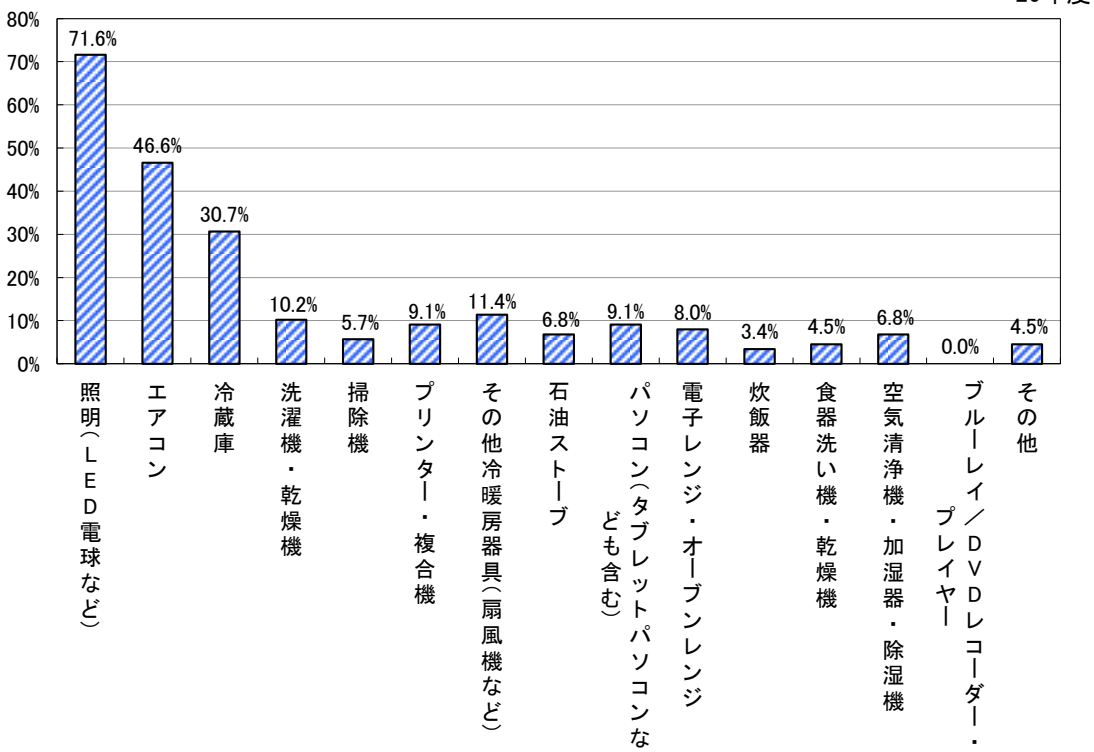
Q34 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか

Q33で「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した81名に、何を買い替え・新たに購入したかたずねたところ、「照明（ＬＥＤ電球など）」が7割を超えて最も多く、以下「エアコン」「冷蔵庫」と続きました。

Q34 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか（複数選択可）

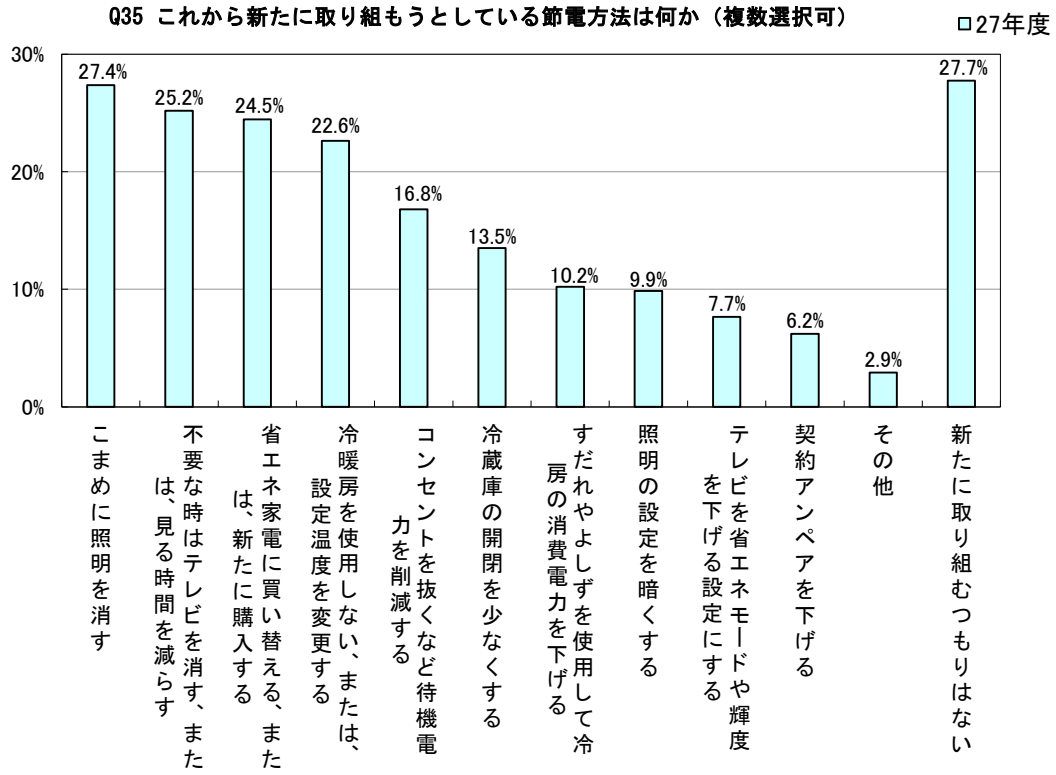


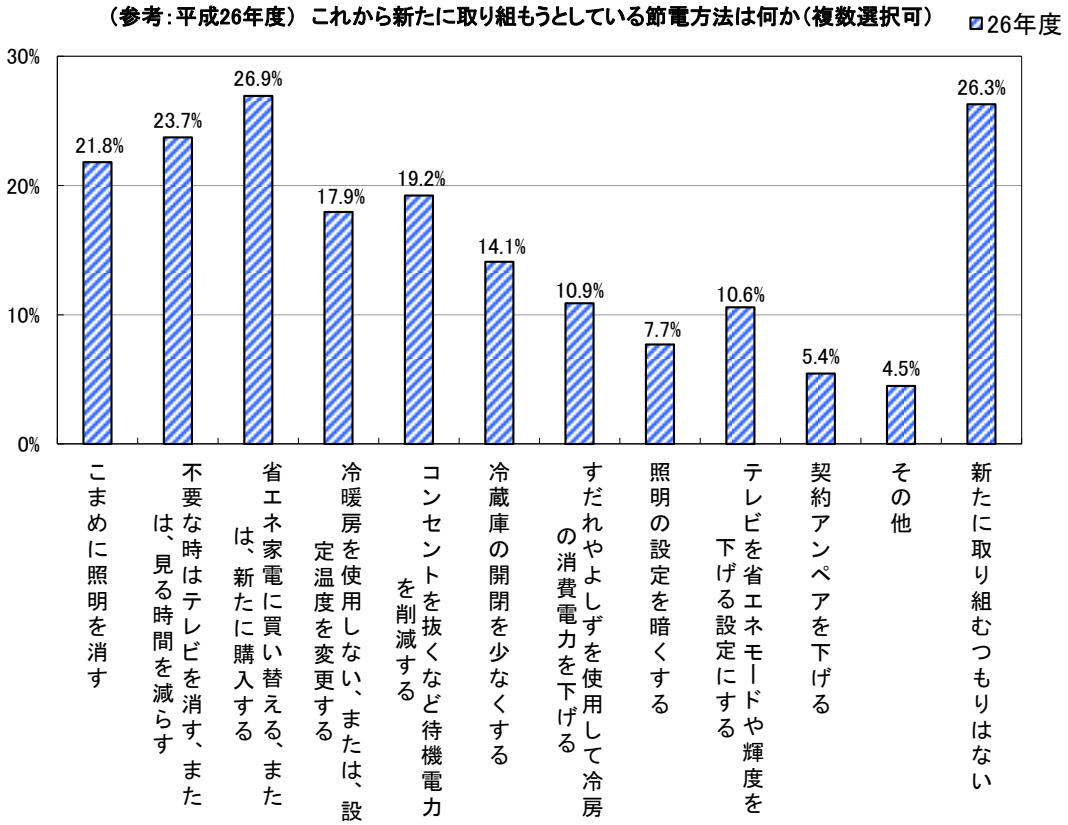
（参考：平成26年度） 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか（複数選択可）



Q35 これから新たに取り組もうとしている節電方法は何か（複数回答可）

これから新たに取り組もうとしている節電方法は、「こまめに照明を消す」が最も多く、「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と続きました。

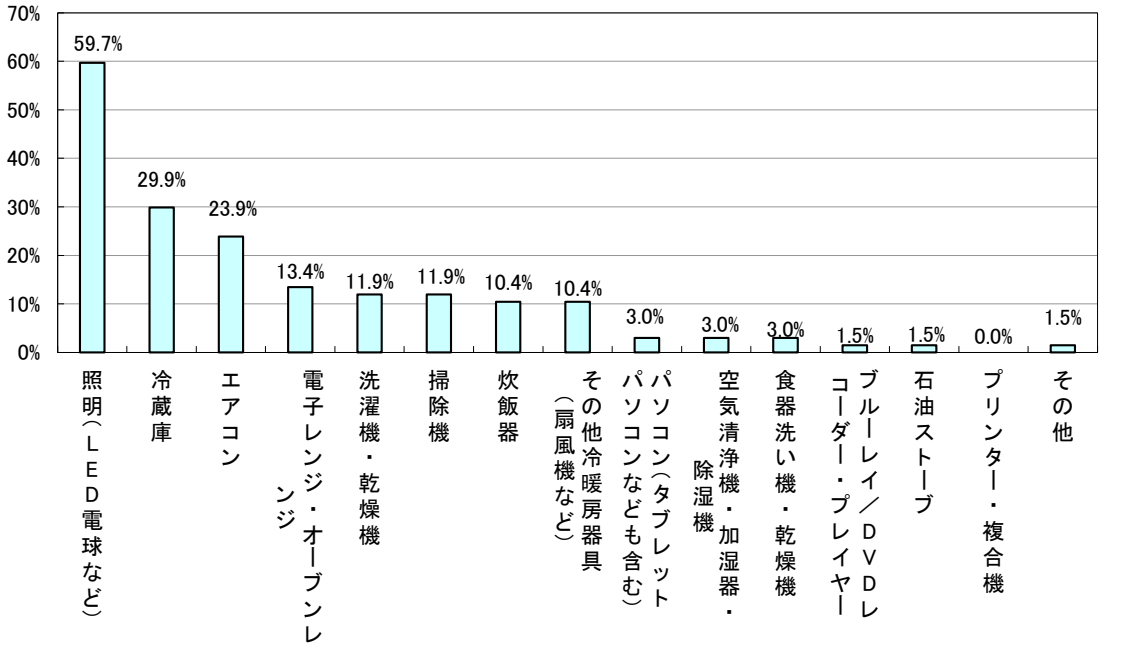




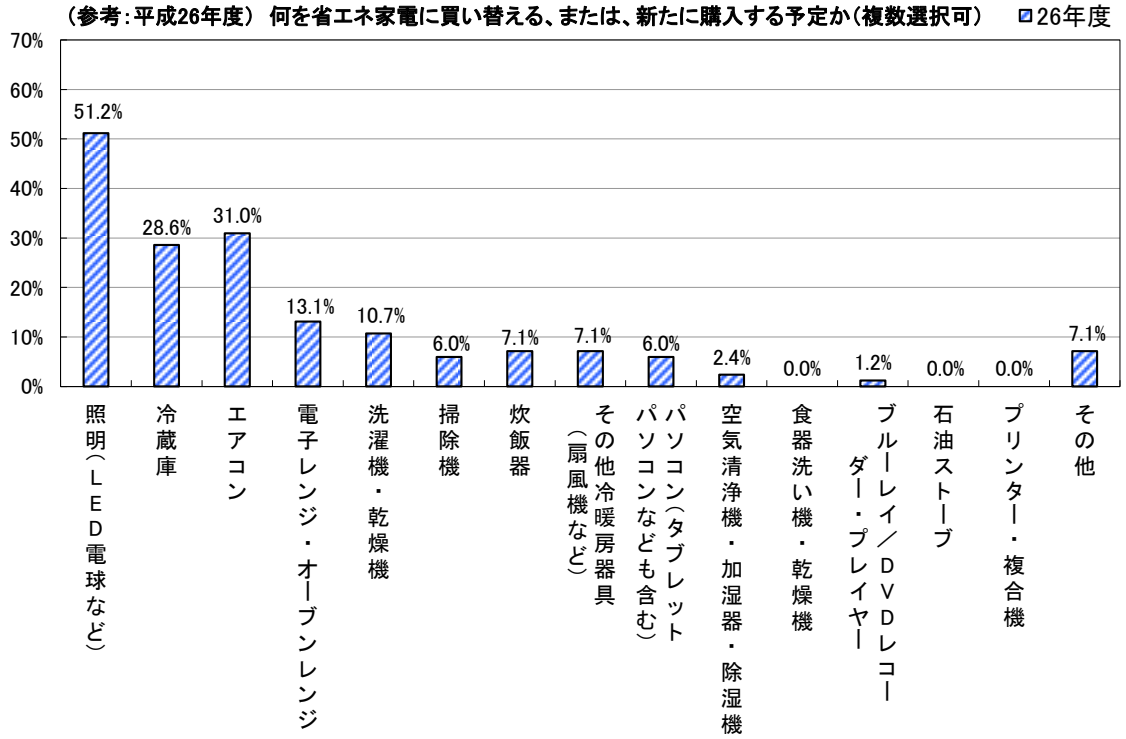
Q36 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か

Q35でこれから「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した67名に、何を買い替え・新たに購入するかたずねたところ、「照明（ＬＥＤ電球など）」が最も多く、Q34と同様の傾向となりました。

Q36 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か（複数選択可）

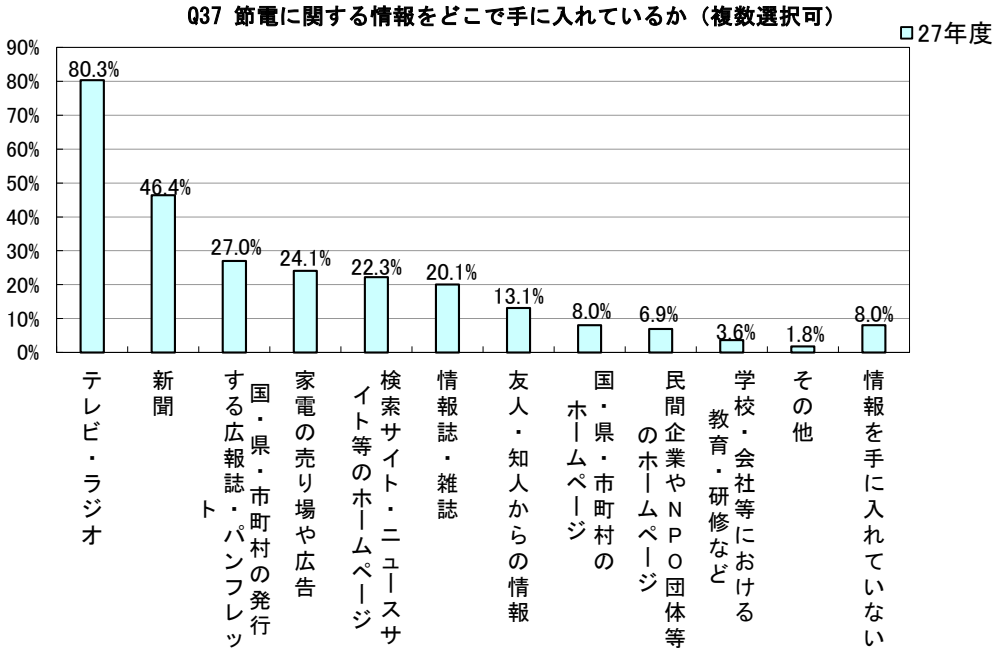


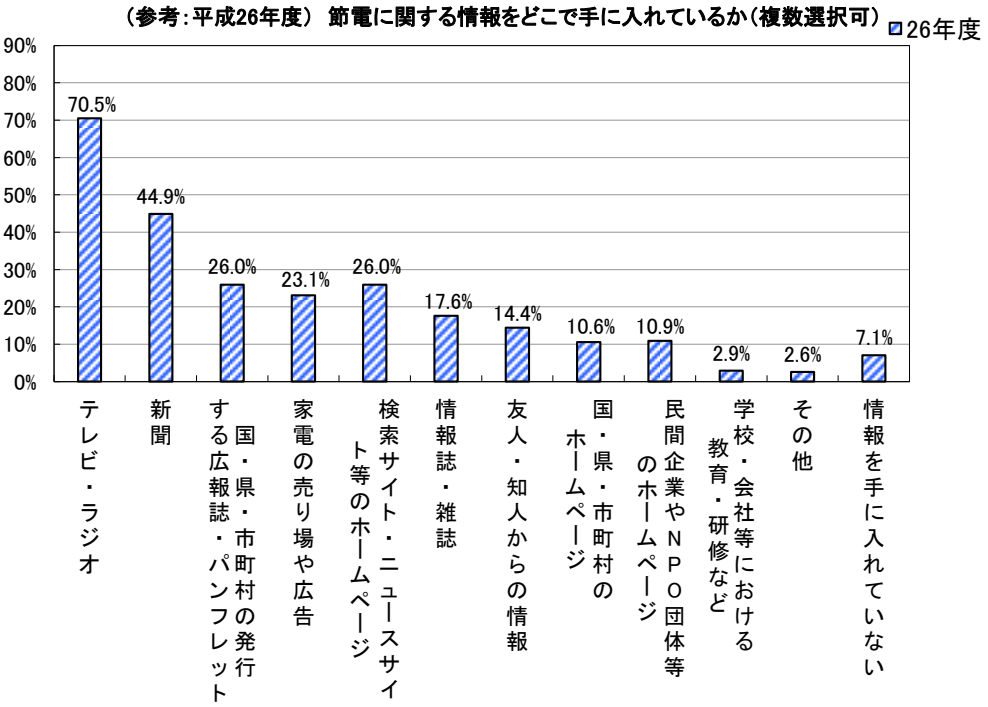
（参考：平成26年度） 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か（複数選択可）



Q37 節電に関する情報をどこで手に入れているか

節電に関する情報をどこで手に入れているか、たずねたところ、「テレビ・ラジオ」が約8割で、次いで「新聞」が4割台でした。





Q38「暮らしむき」「物価と家計」「節電」に関して

「暮らしむき」や「物価と家計」「節電」について日頃感じていることをたずねたところ、主な意見は以下のとおりでした。（自由記入、抜粋・要約）

【暮らしむき】

・節約し、生活の質を上げる
・給料が上がっても税金・物価が上がり、生活は変わらない
・収入が増えないので、今後が不安である
・収入減及び支出増による生活の工夫を考える時期である
・景気回復と生活実感に乖離を感じる
・お金や便利さだけではなく、安全や地球環境に配慮して暮らしていきたい

【物価と家計】

・収入が増えない中、顕著な物価上昇を含めた家計費の支出が増えている
・生鮮食料品に物価上昇を一番感じる
・教育費が高すぎる
・価格に合った品物を提供してほしい
・安全、安心なものが高価な世の中になりつつある
・安くても無駄なものは買わない

【節電】

・派手な看板や過度な冷暖房をしている場所がある
・節電しすぎて暗くて入りづらい店がある
・照明LED、エアコンを替えて電気料金が安くなった
・節電対策をしても効果がわかりにくい
・節電への意識が薄れつつあるように感じる
・自然の力（風、日光等）を利用する

［まとめ］

今回のアンケートを通じ、次のような点が分かりました。

○昨年の同時期と比較した家族の暮らしむきは「苦しくなった」と「変わらない」の割合がほぼ同数で平成26年度と同様の傾向となった一方で、今後の暮らしむきの見通しについては「変わらない」の割合が減少し、「楽になる」「苦しくなる」の割合が増加した。

○日々の生活で経済的な豊かさを実感している割合は「とても実感している」と「ある程度実感している」の合計が平成26年度より増加した。また、「暮らし全体について」の満足度は比較的高いが、「資産・貯蓄」の満足度は低い。

○この1年間の物価についての「上昇感」は高く、その中でも「食料費」への上昇感は平成26年度に続き、最も高くなった。

○節電について具体的な取り組みは「こまめに照明を消す」「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」が上位となり、平成26年度と同様の傾向となった。また、新たに取り組もうとしている節電方法は「こまめに照明を消す」の割合が最も多くなった。

今後、アンケート結果を踏まえ、消費者教育の推進や県民への的確な情報提供などに取り組んでまいります。